

# 文章題テスト・小説(2)

月 日  
名 前

★つぎの文しようを読んで、あとの問いに答えましよう。

おかしなはがきが、ある土曜日の夕がた、一郎のうちにきました。

かねた一郎さま 十九日

あなたは、ごきげんよろしいほど、けっこです。  
あした、めんどなさいばんしますから、おいで  
んなさい。とびどぐもたないでくなさい。

山ねこ 拝

こんなのです。字はまるでへたで、墨もがさがさして指につくくらいでした。けれども一郎はうれしくてうれしくてたまりませんでした。はがきをそつと学校のかばんにしまって、うちじゅうとんだりはねたりしました。

ね床にもぐってからも、山猫のいやあとした顔や、そのめんどうだという裁判のけしきなどを考えて、おそくまでねむりませんでした。

けれども、一郎が眼をさましたときは、もうすっかり明るくなっていました。おもてにでてみると、まわりの山は、みんなたたいまできたばかりのよう  
にうるうるもりあがって、まっ青なそらのしたにならんでいました。一郎は  
いそいでごはんをたべて、ひとり谷川に沿ったこみちを、かみの方へのぼつ  
て行きました。

すきとおった風がざあっと吹くと、栗の木はばらばらと実をおとしました。  
一郎は栗の木をみあげて、

「栗の木、栗の木、やまねこがここを通らなかつたかい。」とききました。  
栗の木はちよつとしずかになつて、

「やまねこなら、けさはやく、馬車でひがしの方へ飛んで行きましたよ。」と  
答えました。



「東ならばくのいく方だねえ、おかしいな、とにかくもってってみよう。栗の木ありがとう。」

栗の木はだまってまた実をばらばらとおとしました。

一郎がすこし行きますと、そこはもう笛ふきの滝たきでした。笛ふきの滝たきというのは、まっ白な岩の崖がけのなかほどに、小さな穴あながあいていて、そこから水が笛のように鳴って飛び出し、すぐ滝たきになって、ごうごう谷におちているのをいうのでした。

6 一郎は滝たきに向かむって叫さけびました。

「おいおい、笛ふき、やまねこがここを通らなかつたかい。」

滝がぴーぴー答えました。

「やまねこは、さっき、馬車で西の方へ飛んで行きましたよ。」

「おかしいな、西ならばくのうちの方だ。けれども、まあも少し行ってみよう。

ふえふき、ありがとう。」

滝はまたもとのように笛を吹きつづけました。

(みやざわけんじによる)

(注) とびどく…飛び道具(てっぼうなど)のこと

拝…自分の名前の後につけて、相手(あいて)をうやまうことば

かみの方…川上(かわかみ)・上流(りゅう)

1 線「おかしいなはがき」について、次のようにまとめました。□に当て

はまることばを、文中からそれぞれ書きぬきましよう。

□ から、一郎あてにとどきました。

□ 字は □ で、文もまちがいたらけです。

2 線2 「うれしくてうれしくてたまりません」とありますが、この気持ちをもっともよく表れている部分を、文中から二十字まででさがし、はじめの五字を書きぬきましよう。




3 線3「すっかり」の使い方として正しいものを、ア～エから一つえらんで、記号に○をつけましょう。

ア かみの毛を短く切ったら、気分がすっかりした。

イ 教科書の入ったランドセルが、すっかり重い。

ウ 大切なやくそくを、すっかりわすれていた。

エ この町は、十年前からすっかりかわらない。

4 線4「ならんでいました」とありますが、何がならんでいたのですか。文中から五字で書きぬきましょう。


5 線5「谷川に沿ったこみちを、かみの方へのぼって行きました」とありますが、一郎は何をしに行ったのですか。次の□に当てはまるように書きましょう。


に行った。

6 線6「一郎は滝に向かって叫びました」とありますが、どうして叫んだのですか。もっともふさわしいものを、ア～エからえらんで、記号に○をつけましょう。

ア 滝がうそをついていると思ったから。

イ 何度聞いても、滝が答えてくれなかったから。

ウ 滝が、見えないほど遠くにあったから。

エ 滝の音が、とても大きかったから。

7 次の①、②に答えましょう

① □に入れるのにもっともふさわしい月を、ア～エからえらんで、記号に○をつけましょう。

ア 三月    イ 六月    ウ 九月    エ 十二月

② ①でえらんだ理由を、次の□に当てはまることを書いてせつめいしましょう。

--

が

--

ことから、季節は

--

だとわかるから。

